

YIA 会員だより 2025年3月号

発行：吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第243号 ホームページURL <https://yia2020.net/>



【3月以降の活動予定他】

◎「多文化共生交流会～知り合おう、ふれあおう、認めあおう～」

日時：3月2日（日）13:30～16:00

会場：文化研修センター多目的ホール（東側）

◎外国人お遍路ガイド

日時：第20回 3月3日（月）10:00～

◎第11回理事会

日時：3月29日（土）15:00～

場所：文化研修センター

◆日本語教室・2024年度の活動報告 萩森 健治

YIAの日本語教室は1992年10月に開講して以来今年で33年目。現在は毎週日曜日に、山川教室（山川公民館）で10:00～11:30、鴨島教室（文化研修センター）で13:30～15:30に年間約40回開催しています。

学習者：参加する学習者は、吉野川市内や近隣市町で技能実習や特定技能として働く外国人が多く、技術人文国際のエンジニアや定住者らも来校しています。

今年度2回以上出席した学習者は、ベトナム(17)、インドネシア(8)、カンボジア(6)、ラオス(5)、パキスタン(5)、中国(4)、フィリピン(3)、ネパール(1)、タイ(1)の9か国で登録者総数は50人です。年齢は20～40歳代で約2/3が女性です。日本語を勉強したい人は無料でだれでも参加できます。

ボランティア講師：講師は両教室合わせて14人（女性8人、男性6人）で年齢は30歳～70歳代です。体験参加も大歓迎です。

授業の様子：学習者の日本語レベルや日本語を学ぶ動機は様々です。教室ではできる限り同じようなレベルの学習者にグループ分けし、会話、文型、日本語能力試験（JLPT）対策などの指導を実施しています。使用するテキストは、「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」「日本語能力試験用問題集」などです。JLPT試験は7月と12月の年に2回行われ、試験前になると受験希望の学習者が多く出席します。

鴨島教室：毎回の出席者数は4～8人で平均6.2人と少なくなっています。以前はベトナム人が20～25人くらい出席していましたが、ここ数年で大幅に減少しました。技能実習期間が終了して特定技能の介護職に移行し、吉野川市から離れた人が多く、また日曜日は仕事のため教室に参加できないことも原因だと思います。



パキスタン出身の家族やラオス出身の農業実習生、インド



ネシアの介護職らが来校しています。ネパール出身のエンジニアは今年度もほぼ毎週来校しています。講師体験者や徳島市内の行政書士の方が時々参加しています。

山川教室：山川教室は2020年6月に新規に開校して4年半になり教室は順調に推移しています。出席者数は





7～12人で平均7.5人です。教室の近くに佐藤化学、白山衣料、マルイソーイングという縫製会社や原田食品があり、それらの会社で働く技能実習生や特定技能生の学習者らが定期的に出席しています。また富士製紙で働くカンボジア出身者も新規に参加するようになりました。

学習モチベーション向上：日本語学習意欲の向上を図るため、徳島県日本語弁論大会への出場を奨励しています。2018年にベトナム人技能実習生のホックさんが初めて出場し、それ以来2024年まで7年間連続で合計13人出場。2024年度はディアさん（インドネシア出身）が2位に入賞しました。弁論大会出場への登竜門として日本語スピーチコンテストも開催しています。また、日本語教室への出席を促すため半期ごとに最多出席者を表彰しています。



役所連と合同の阿波踊り、川島高校のサマーチャレンジ授業に参加、俳句書道ワークショップで俳句に挑戦、浴衣着物着付け体験会、姫路城バスツアー、もちつき大会などを楽しみました。

今後に向けて：日本語教室では、外国人に対して「言葉の壁」を解消することを目的として日本語指導を続けています。また活動を通して地域住民との「心の壁」を解消し、互いに住みやすい多文化共生社会をつくることを目指して頑張りたいと思います。ボランティア講師も大歓迎ですので、一度遊びに来てください。

◆パキスタン料理の夕食会 井口 和代

パキスタン料理は生まれて初めてでした。日本語教室に来ているタリクさん家族が、私たちを家に招待してくれたのです。タリクさん家族は9ヶ月程前に日本に来



課外活動：日本語学習以外に日本文化体験やバスツアーなどのイベントを開催し、学習者と地域住民との交流を図っています。地域のライオンズクラブとの交流、市

て、ご両親と18歳になる娘さん、そして19歳の長男さん、5歳の次男くんの5人家族です。私たち日本人は総勢6人で行きました。家に着くとお父さんが迎えてくれました。そしてテーブルに着くと長男のタルハ君が料理を次々に持ってきてくれました。どれも見たことのないものばかり。香りも異国情緒満載です。タルハ君がそれをひとつひとつ説明してくれました。全部で10種類はあったと思います。本当に感謝です。

しばらくしてお母さんと娘さんも現れました。その時に「こんなにたくさん料理、とても時間がかかったでしょう。本当に本当にありがとうございます」と言うと、「いいえ、私たちはよくこうやって集まってみんなで食事をします。親戚、ご近所、友達、みんなが集まって、時には12時、明け方まで、会話と食事を楽しめます。だからたくさん料理を作ることには慣れています。大丈夫です。楽しんでくださいね」と言ってくれました。心が温かくなりました。

その思いを共有したくて、その時に撮った写真をインターネットにあげると、それを見た娘のアーバさんからすぐにメッセージがきて「We really enjoyed hosting you all!」と。また、心が温かくなったのでした。

◆吉野川市に住む外国人の状況 萩森 健治

市内に在住する外国人の状況について毎年1月末時点で調査しており、2025年の結果を報告します。

特徴

- ① 吉野川市の外国人は昨年より63人増加し572人となり過去最多。コロナ禍で2021年、2022年に2年連続で計54人減少したが、コロナがほぼ終息した2023年から急増。2025年の吉野川市の人口(376百人)の1.5%。
- ② 出身国は23か国で昨年より1か国減少したが、多くの国籍の人たちが多文化共生の様相を呈す。
- ③ ベトナムは昨年より23人増加の152人となり1位。技能実習を終え特定技能として再入国した人が増えたのでは。
- ④ 中国は136人で昨年より12人増加したが、ベトナムについで昨年同様第2位。
- ⑤ インドネシアは昨年より22人も増加し104人。ほとんどが技能実習生と思われる。
- ⑥ フィリピンは3人増加し49人。日系など身分に基づく在留者が多く変動が少ない。

- ⑦ ミャンマーは昨年より6人増加し28人。カンボジアは2人減少し23人。
- ⑧ スリランカは一昨年より増加し、昨年より6人増加の13人。
- ⑨ パキстанは昨年より1人減少の13人。
- ⑩ 米国は昨年同様12人、韓国は1人減少し7人。
- ⑪ タイは多い年は30人いたが、7年前に16人となり減少の一途で2025年は6人。

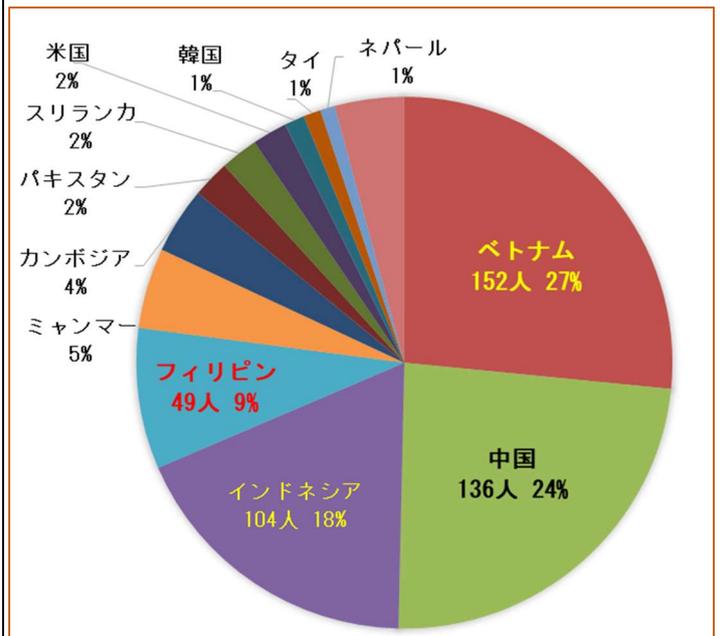


図-1 国別人数割合 合計572人 (2025年)

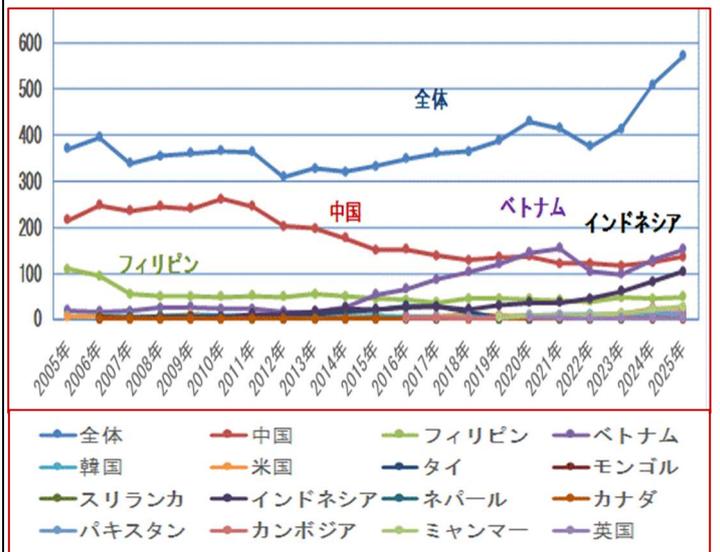


図-2 外国人数の経年変化

吉野川市の外国人登録数 (2025年1月31日現在)

登録数が多い順に:
 ベトナム152人、中国136人、インドネシア104人、フィリピン49人、ミャンマー28人、カンボジア23人、パキスタン13人、スリランカ13人、米国12人、韓国7人、タイ6人、ネパール5人、英国4人、カナダ4人、インド3人、ハンガリー3人、モンゴル2人、ルーマニア2人、ロシア2人、台湾、ブラジル、ドイツ、ニュージーランド各1人 23か国 合計 572人